

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

# デーヴォ ガイド



**2023.10.16-22**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。



1:1 神のみこころによるキリスト・イエスの使徒パウロから、キリスト・イエスにある忠実なエペソの聖徒たちへ。

1:2 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにありますように。

1:3 私たちの主イエス・キリストの父である神がほめたたえられますように。神はキリストにあって、天上にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださいました。

1:4 すなわち神は、世界の基が据えられる前から、この方において私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです。

1:5 神は、みこころの良しとするところにしたがって、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定められました。

1:6 それは、神がその愛する方において私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです。

1:7 このキリストにあって、私たちはその血による贖い、背きの罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。

1:8 この恵みを、神はあらゆる知恵と思慮をもって私たちの上にあふれさせ、

1:9 みこころの奥義を私たちに知らせてくださいました。その奥義とは、キリストにあって神があらかじめお立てになったみむねにしたがって、

1:10 時が満ちて計画が実行に移され、天にあるものも地にあるものも、一切のものが、キリストにあって、一つに集められることです。

1:11 またキリストにあって、私たちは御国を

受け継ぐ者となりました。すべてをみこころによる計画のままに行う方の目的にしたがい、あらかじめそのように定められていたのです。

1:12 それは、前からキリストに望みを置いていた私たちが、神の栄光をほめたたえるためです。

1:13 このキリストにあって、あなたがたもまた、真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞いてそれを信じたことにより、約束の聖霊によって証印を押されました。

1:14 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。このことは、私たちが贖われて神のものとされ、神の栄光がほめたたえられるためです。

私たちが救われたのは偶然ではありません。主のご計画によるもので、また聖霊の証印が押されているのです。ですからこの救いが、決して損なわれることはありません。

また私たちは救われる前とは違う感じ方、行き方ができるものです。赦せなかった人を赦せたり、愛せなかった人を愛したり、主に従いたいという思いが与えているでしょう。それは聖霊によるもので、この聖霊こそが、保証です。そしてその保証は神の御国という絶大な栄光を受け継ぐ確証でもあるのです。

これらを常に自分自身のもんとして、積極的に創造的に、また信仰的に日々決断して、生きましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 17日 火曜

エペソ



1:15 こういうわけで私も、主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対する愛を聞いているので、  
1:16 祈るときには、あなたがたのことを思い、絶えず感謝しています。  
1:17 どうか、私たちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。  
1:18 また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しにより与えられる望みがどのようなものか、聖徒たちが受け継ぐものがどれほど栄光に富んだものか、  
1:19 また、神の大能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どれほど偉大なものであるかを、知ることができますように。  
1:20 この大能の力を神はキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上でご自分の右の座に着かせて、  
1:21 すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世だけでなく、次に来る世においても、となえられるすべての名の上に置かれました。  
1:22 また、神はすべてのものをキリストの足の下に従わせ、キリストを、すべてのものの上に立つかしらとして教会に与えられました。  
1:23 教会はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです。

神様から与えられているものが、どれほど素晴らしいものかを、知らないなら、喜びの人生を歩めるはずがありません。前進することはできません。

それには私たちの目がはっきり見える必要があります。

その鍵はキリストです。キリストの支配の栄光を見ることです。そしてそのキリストを、神は教会にお与えになりました。教会こそ「キリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところ」なのです。

教会を主の権威と知恵のゆえに尊重しましょう。教会に主キリストがおられることを知って、教会を通して主を愛しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 18日 水曜

エペソ



2:1 さて、あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、  
2:2 かつては、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。  
2:3 私たちもみな、不従順の子らの中にあって、かつては自分の肉の欲のままに生き、肉と心の望むことを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。  
2:4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、  
2:5 背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです。  
2:6 神はまた、キリスト・イエスにあって、私たちをともによみがえらせ、ともに天上に座らせてくださいました。  
2:7 それは、キリスト・イエスにあって私たちに与えられた慈愛によって、この限りなく豊かな恵みを、来たるべき世々に示すためでした。  
2:8 この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。  
2:9 行いによるものではありません。だれも誇ることもないためです。  
2:10 実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。

世の中に善人は大勢いますが、聖なる神様の前に罪のない人は1人もいません。良い行いも、それが許される状況があるからできるのです。善を行っていると思っている人でも、大きな悲しみや裏切りに会うとき、または長くストレスが続くときなど、大きく変わってしまうものです。ですから神から乖離（かいり）しているなら、自己中心の罪を免れることはできません。誰でも「罪過と罪との中い死んでいた」者なのです。何よりも自分を造ってくださった神を無視して、その心を踏みにして生きてきたのですから、どんな親不孝よりも罪が重いということになります。「不従順の子らの中にあって」ということです。ですから救われたのは、「ただ恵み」だけです。そして救いとは「ともに天の所にすわらせてくださる」ということなのです。私たちは地上にあって天の所から全てを見ることができるようになっています。そしてあとに来る世々において、「恵を」明かに示していただけるのです。神の恵はこの世の視点ではわかりません。神の視点が必要です。主のみどころが分るようになった私たちにこそ、「天の所」から見られる視点が与えられているということです。その時に分ることは、私たちの救いは行いによるのではなく、ただ一方的な恵みによるということであり、良い行いはその後についてくるということです。ですから救いの確信が何よりも大切です。成長には救いの確信が大切であり、奉仕も、どんな行いにも救いの確信が、その力になります。また救いの感謝が動機となるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 19日 木曜

### エペソ

2:11 ですから、思い出してください。あなたがたはかつて、肉においては異邦人でした。人の手で肉に施された、いわゆる「割礼」を持つ人々からは、無割礼の者と呼ばれ、2:12 そのころは、キリストから遠く離れ、イスラエルの民から除外され、約束の契約については他国人で、この世にあって望みもなく、神もない者たちでした。

2:13 しかし、かつては遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスにあって、キリストの血によって近い者となりました。

2:14 実に、キリストこそ私たちの平和です。キリストは私たち二つのものを一つにし、ご自分の肉において、隔ての壁である敵意を打ち壊し、

2:15 様々な規定から成る戒めの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、この二つをご自分において新しい一人の人に造り上げて平和を実現し、

2:16 二つのものを一つのからだとして、十字架によって神と和解させ、敵意を十字架によって滅ぼされました。

2:17 また、キリストは来て、遠くにいたあなたがたに平和を、また近くにいた人々にも平和を、福音として伝えられました。

2:18 このキリストを通して、私たち二つのものが、一つの御霊によって御父に近づくことができるのです。

2:19 こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、聖徒たちと同じ国の民であり、神の家族なのです。

2:20 使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられていて、キリスト・イエスご自身が

その要の石です。

2:21 このキリストにあって、建物の全体が組み合わされて成長し、主にある聖なる宮となります。

2:22 あなたがたも、このキリストにあって、ともに築き上げられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。

エペソは異邦人の教会でしたから、異邦人を忌み嫌っていたユダヤ人とは仲良くできるはずもなかったのですが、信仰によっては「近いものとなり」、二つが一つになり、平和が実現されました。

同じように私たちもこの世では仲良くできずらい関係の者同士が、一つとなることによって、すばらしい証ができるのです。

そのように教会は、異質な者同士が組み合わされるところです。そして聖なる宮となれるです。すなわち神の臨在を実現できるのです。

キリストこそが私たちの隔てを廃棄されて、和解を成し遂げられる方です。和解ができないのは、私たち人間の内にある「敵意」が存在しているからです。「敵意とは、さまざまな規定から成り立っている戒めの律法」なのでもあります。つまりユダヤ人にはユダヤ人の律法があり、異邦人には異邦人の律法があるということで、両者がそれに固執しているということです。

人間関係の場合でも、和解できないお互いというのは、両者が互いに自分の正しさを主張するところにあります。相手が間違っているとするとともに歩み寄りも、共通理解も成り立たなくなってしまいます。

しかし、イエス様は「ご自分の肉において、敵意を廃棄され」たとあります。つまり、自分を正しいとしつつ相手を理解しない、この「敵意を」十字架で廃棄なさったのです。ということ、本当に十字架を自分のためと分っている人は、この敵意を持っていないのです。つまり、自己正当化する律法「戒めの律法」は廃棄されているという



ことです。

私たちはどうでしょうか。「同じ国民」、「神の家族」として、和解しているでしょうか。キリストのからだである教会が「組み合わされた建物の全体が成長」するように、すべての信徒たちと和解しているのでしょうか。気の合う人ばかりではなく、異質、対立関係となりやすいような人とも、むしろ積極的に交わりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





## 20日 金曜

### エペソ

3:1 こういうわけで、あなたがた異邦人のために、私パウロはキリスト・イエスの囚人となっています。

3:2 あなたがたのために私に与えられた神の恵みの務めについては、あなたがたはすでに聞いたことでしょう。

3:3 先に短く書いたとおり、奥義が啓示によって私に知らされました。

3:4 それを読めば、私がキリストの奥義をどう理解しているかがよく分かるはずです。

3:5 この奥義は、前の時代には、今のように人の子らに知らされていませんでしたが、今は御霊によって、キリストの聖なる使徒たちと預言者たちに啓示されています。

3:6 それは、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦人も共同の相続人になり、ともに同じからだに連なって、ともに約束にあずかる者になるということです。

3:7 私は、神の力の働きによって私に与えられた神の恵みの賜物により、この福音に仕える者になりました。

3:8 すべての聖徒たちのうちで最も小さな私に、この恵みが与えられたのは、キリストの測り知れない富を福音として異邦人に宣傳伝えるためであり、

3:9 また、万物を創造した神のうちに世々隠されていた奥義の実現がどのようなものなのかを、すべての人に明らかにするためです。

3:10 これは、今、天上にある支配と権威に、教会を通して神のきわめて豊かな知恵が知らされるためであり、

3:11 私たちの主キリスト・イエスにおいて成し遂げられた、永遠のご計画によるものです。



3:12 私たちはこのキリストにあって、キリストに対する信仰により、確信をもって大胆に神に近づくことができます。

3:13 ですから、私あなたがたのために苦難にあっていて、落胆することのないようお願いいたします。私が受けている苦難は、あなたがたの栄光なのです。

このようにユダヤ人と異邦人が一つとなるということは、奥義中の奥義でした。それは十字架の力によるものです。十字架は神さまからの一方的な恵みですから、人間の行いによらず、また条件にもよりません。ですからユダヤ人も異邦人も関係ないのです。

また異邦人とユダヤ人が一つとなるのは、世に対して、天に対して神の救いのすばらしさを、宣言することになるのです。

パウロはそのために召されたとあります。私たちもそのために召されました。ですから異質な人も理解し合い、受け入れあい、愛し合ひましょう。むしろ、自分と違うタイプの人や受け入れがたい人こそ、受け入れて、神様のすばらしさを表わす者になりたいものです。

パウロは、かつてクリスチャンを偏狭な価値観で迫害しましたから、一番小さな者です。また受け入れられるには難しい人です。しかし、今や神の器として、共同体の中で用いられているのです。

過去が神から離れていればいるほど、その人が主によって生きていることは、力強い証しになります。過去に囚われることなく、パウロのように決心しつつ、主のために人生をささげましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 21日 土曜

### エペソ



- 3:14 こういうわけで、私は膝をかがめて、  
3:15 天と地にあるすべての家族の、「家族」という呼び名の元である御父の前に祈ります。  
3:16 どうか御父が、その栄光の豊かさにしたがって、内なる人に働く御霊により、力をもってあなたがたを強めてくださいますように。
- 3:17 信仰によって、あなたがたの心のうちにキリストを住まわせてくださいますように。そして、愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、  
3:18 すべての聖徒たちとともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、  
3:19 人知をはるかに超えたキリストの愛を知ることができますように。そのようにして、神の満ちあふれる豊かさにまで、あなたがたが満たされますように。  
3:20 どうか、私たちのうちに働く御力によって、私たちが願うところ、思うところのすべてをはるかに超えて行うことのできる方に、  
3:21 教会において、またキリスト・イエスにあって、栄光が、世々限りなく、とこしえまでもありますように。アーメン。

パウロが愛するエペソの信徒たちに願っていることは、この世的な物質の豊かさではなく、霊的な理解力です。人は人生の中で豊かにもなり、乏しくもなります。また健康なときもあれば病のときもあります。誰もが死んでゆきます。信仰とは永遠の命のことであり、この世のあらゆる問題を越えたものです。

もちろんこの世の問題のためにも祈りますが、それはあくまでも神の御手の中にあるのです。その神

の御心がどれほどすばらしく、信頼に足るものであるか、それを知ることが何よりも解決であり、それゆえに平安であり感謝なのです。幸いなのです。

それを明かにして神の栄光をあらわすために、神は教会を造られました。教会とはクリスチャンの愛の交わりです。教会の使命と尊さを再発見しましょう。教会を通して主に仕えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





4:1 さて、主にある四人の私はあなたがたに勧めます。あなたがたは、召されたその召しにふさわしく歩みなさい。

4:2 謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに耐え忍び、

4:3 平和の絆で結ばれて、御霊による一致を熱心に保ちなさい。

4:4 あなたがたが召された、その召しの望みが一つであったのと同じように、からだは一つ、御霊は一つです。

4:5 主はひとり、信仰は一つ、バプテスマは一つです。

4:6 すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのもののうちにおられる、すべてのものの父である神はただひとりです。

4:7 しかし、私たちは一人ひとり、キリストの賜物の量りにしたがって恵みを与えられました。

4:8 そのため、こう言われています。「彼はいと高き所に上ったとき、捕虜を連れて行き、人々に贈り物を与えられた。」

4:9 「上った」ということは、彼が低い所、つまり地上に降られたということではなくて何でしょうか。

4:10 この降られた方ご自身は、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりも高く上られた方でもあります。

4:11 こうして、キリストご自身が、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。

4:12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるため

す。

4:13 私たちはみな、神の御子に対する信仰と知識において一つとなり、一人の成熟した大人となって、キリストの満ち満ちた身文にまで達するのです。

4:14 こうして、私たちはもはや子どもではなく、人の悪巧みや人を欺く悪賢い策略から出た、どんな教えの風にも、吹き回されたり、もてあそばれたりすることがなく、

4:15 むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において、かしらであるキリストに向かつて成長するのです。

4:16 キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つながり合わされ、それぞれの部分がその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることとなります。

主の四人とありますが、主がパウロを捕えたとか、主の監獄に入れたということではありません。パウロは自分から進んで、喜んで主に囚われているのです。また四人のように自分から主の愛の御手の中から出ないで、主のお心を行っているということです。

それが本当に幸いな人生なので、彼はエペソの人々にも、召しにふさわしく歩むようにと勧めています。私たちは良い行いをすべきですが、その動機は何よりも主に召されている、という理解と、召された主を喜ばせたいという、感謝と愛からです。

特に教会を通してクリスチャンは生きますから、御霊の一致が大切なのです。その基本は神は一つという信仰です。その事実です。教会を通して、主の召しを全うしましょう。

一致とは単なる全体主義ではありません。主は私たちにそれぞれ違った賜物を与えてくださったのです。全体主義は主の御心に反することになり

ます。

教会はすばらしいもので、尊重して仕えるべきですが、それは牧師などに服従するものではありません。牧師のようなリーダーに氣に入られるように、全員が同じものになるではありません。

牧師もキリストの体である教会を建て上げるための一人に過ぎません。また教師も同じです。牧師や教師のようなリーダーは自分に従わせるのではなく、みんなを整えて奉仕へと向かわせるのが、その役割です。整えるということには動機も重要です。イエスを愛する思い、自分から進んでやりたいと思う恵など、聖徒たちが幸いと感じるように、主の愛をたくさんいただくのです。

ですから愛のうちに建てられるのです。従う場合もリードする場合も、主の愛のうちに一致を喜びつつ、成長しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

